

インフルエンザワクチン（注射製剤；不活化ワクチン）Q&A

Q.1：他のワクチンと同時接種ができるか？

新型コロナワクチン

インフルエンザワクチン



インフルエンザワクチンは、新型コロナワクチンとの同時接種も可能です。

新型コロナワクチンは筋肉注射、インフルエンザワクチンは皮下注射となります。

インフルエンザワクチンは、新型コロナワクチン以外との同時接種も可能です。

肺炎球菌ワクチン・带状疱疹ワクチン・麻疹風疹混合ワクチン・おたふく ワクチン・日本脳炎ワクチン等、ほとんどのワクチンと同時接種ができます。

（注）新型コロナワクチンも他のワクチンと同時接種できます。

Q.2：ワクチンは1回接種でよいか？

13歳未満の方は、2回接種

13歳以上の方は、1回接種が原則

* 1回目の接種時に12歳で2回目の接種時に13歳になっていた場合は、12歳として考えて2回の接種を行います。

** ワクチンの添付文書には「13歳以上のものは1回または2回注射」と記載されています。健康な成人の方や基礎疾患(慢性疾患)のある方を対象に行われた研究で、インフルエンザワクチン1回接種は、2回接種と同等の抗体価^(注)上昇が得られるとされました¹⁾²⁾。免疫抑制剤・抗がん剤・ステロイド等、免疫を抑える薬剤を使用中の方やその同居者、受験生や受験生がいる同居者等は、2回接種しておくのも一案です。

Q3：2回接種する場合、接種間隔はどのくらいがよいのか？

免疫効果を考慮すると、4週間おくことが望ましいとされています。

1) 平成23年度 厚生労働省科学研究費補助金 新興インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業「予防接種に関するワクチンの有効性・安全性についての分析疫学研究（研究代表者：廣田良夫（大阪市立大学））」

2) 平成28年度 厚生労働省行政推進調査事業費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業「ワクチンの有効性・安全性評価とVPD（Vaccine preventable diseases）対策への適用に関する分析疫学研究（研究代表者：廣田良夫（保険医療経営大学））」

Q.4：インフルエンザワクチンの接種は、いつ頃受けるのがよいか？

接種から効果が現れるまで通常約2週間程度かかり、約5か月その効果が持続するとされています。インフルエンザは12月～4月頃に流行し、例年1月末から3月上旬に流行のピークを迎えるため、12月中旬までに接種を完了することが望ましいと考えられます。

Q.5：コロナ禍はインフルエンザは流行しなかった。ワクチンの接種を受けた方がよいか？

コロナ禍の4年前～昨年はインフルエンザの流行がなかった分、幅広い年代でインフルエンザウイルスに対する免疫がなく感染する人が増加し、感染が広がる可能性があります。

このため、今年も例年通りに小児・妊婦を含めて、接種出来ない特別な理由のある方を除き、出来るだけ多くの方に、インフルエンザワクチンの積極的な接種が推奨されます。

Q.6：妊娠しているが、安全に接種できるか？

週数にかかわらず安全に接種可能です。もちろん赤ちゃんにも影響はありません。その他、妊娠を考えている方、授乳中のどの時期でも接種可能です。

Q.7：接種後にシャワーやお風呂に入ってもよいか？

ワクチンを接種した日のシャワーや入浴には、特別な問題はありません。注射した部位は強くこすらないようにしましょう。

Q.8：接種後に習い事や部活に行ってもよいか？

接種後当日中は水泳、サッカー等の激しい運動は控えましょう。接種部位の腫れ・赤み・かゆみ等が増強する可能性があります。

Q.9：インフルエンザワクチン接種によって生じる副反応にはどのようなものがあるか？

比較的多くみられる副反応には、接種した場所の発赤・腫脹・疼痛等が挙げられます。接種を受けられた方の10～20%に起こりますが、通常2～3日で消失します。

全身性の反応としては、発熱・頭痛・寒気（悪寒）・だるさ（倦怠感）等が見られます。接種を受けられた方の5～10%に起こり、こちらも通常2～3日で消失します。

また、まれですが、ショック・アナフィラキシー様症状（発疹、じんま疹、発赤、掻痒感、呼吸困難等）が見られることもあります。ショック、アナフィラキシー様症状は、ワクチンに対するアレルギー反応で接種後、比較的すぐに起こることが多いことから、接種後15分間は接種した医療機関内で安静にしてください。

そのほか、重い副反応（ギランバレー症候群、急性脳症等）の報告がまれにあります。ただし、報告された副反応の原因がワクチン接種によるものかどうかは、必ずしも明らかになっていません。

Q.10: ワクチンの効果（有効性）について

「何に対する効果か？」を理解・整理しておくことが大事です。

「感染」： 体の中の侵入を許し、細胞内に入りこまれること

「発病」： 発熱などの症状が出現すること

「重症化」： 肺炎や脳症等を生じ、入院加療が必要となったり死亡すること



- ・「感染」を完全に抑える働きはありません。
- ・「発病」を抑える効果が一定程度認められています。
- ・最も大きな効果は「重症化」を予防することです。

表 2. 日本におけるインフルエンザワクチンの効果

対象年齢	発症予防率 (%)	死亡低下率(%)	調査シーズン
1 歳未満 ¹⁾	不明		1999-2002
1 歳以上～6 歳未満 ¹⁾	20～30		2000/2001, 2001/2002
6 歳未満 ²⁾	60		2015/2016
0～15 歳 ³⁾	(1 回接種) 68 (2 回接種) 85		2001/2002
16～64 歳 ³⁾	(1 回接種) 55 (2 回接種) 82		2001/2002
65 歳以上(健常人) ⁴⁾	45	80	1997-1999
65 歳以上 (高齢者施設に入所中) ⁵⁾	34～55	82	1997-1999

1) 神谷 齋・加地正朗, 他: 厚生労働科学研究費補助金 (新興・再興感染症研究事業)、総合研究報告書 (平成 12 年～14 年度), 乳幼児に対するインフルエンザワクチンの効果に対する研究

2) 廣田良夫ほか: 厚生労働行政推進調査事業費補助金 (新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業) (平成 28 年度), ワクチンの有効性・安全性評価と VPD (vaccine preventable diseases) 対策への適用に関する分析疫学研究

3) Kawai N et al. A prospective, internet based study of the effectiveness and safety of influenza vaccination in the 2001-2002 influenza season. Vaccine 21:4507-13, 2003.

4) 神谷 齋ほか: 厚生労働科学研究費補助金 (新興・再興感染症研究事業)、総合研究報告書 (平成 9 年～11 年度), インフルエンザワクチンの効果に関する研究

5) 神谷 齋ほか: 厚生労働科学研究費補助金 (新興・再興感染症研究事業), 総合研究報告書 (平成 11 年度), インフルエンザワクチンの効果に関する研究

Q.11: 2024-2025 期のインフルエンザワクチン（注射製剤）の製造株は何か？

我が国における 2024-25 期インフルエンザワクチン（注射製剤）は、以下の株からなる 4 価ワクチンで、2023-24 期から A/H3N2 株の 1 株が変更となっています。

◆A 型株

A/ビクトリア/4897/2022 (IVR-238) (H1N1) (注)

A/カリフォルニア/122/2022 (SAN-022) (H3N2)

◆B 型株

B/プーケット/3073/2013 (山形系統)

B/オーストリア/1359417/2021 (BVR-26) (ビクトリア系統)

(注) A 型/ビクトリアという地名で分離報告された/4897 番目に分離された/20221 年に分離された、IVR-238 という型番、H1N1 の表面抗原を持つウイルスという意味です。